

こどもの権利ワークショップ実施報告書

2026

Vol. 01

主催：浜松市 こども若者政策課

運営受託者：一般社団法人 こどもアドボカシーセンター浜松

協力：認定NPO法人フリー・ザ・チルドレン・ジャパン



全体設計とプロジェクトの背景

背景・目的

浜松市では、すべてのこども・若者が健やかで幸せに成長できるまちを目指し、令和9年

(2027年) 4月に「浜松市こどもの権利条例」の施行に向け準備を進めています。

本プロジェクトは、令和7年度の市民アンケート結果も踏まえ、こども自身を「未来の準備期間」としてではなく「今を生きる 権利の主体」として捉え、こどもの権利をどのように学校・地域・社会などへ広めていくか、こどもたちが主体となってアイデアを出し合い、具体化していくことを目的としています。

対象:市内在住・在学の小学5年生～大学生世代

実施概要

※予定は変更になる場合があります。

09.13
Sun

こどもの権利を知ろう！

仲良くなるう・こどもの権利カードゲーム・アイデア出し

10.04
Sun

アイデアをしばりこもう

アイデアの共有・話し合い・しばりこみ

10.25
Sun

発表の準備をしよう

伝えたいことをまとめる・発表準備

11.15
Sun

こどもの権利フォーラム2026

意見の発表・パネルディスカッション

第1回ワークショップ 実施プログラムと当日の様子

実施概要

開催日時 令和8年(2026年) 9月13日(日) 13:30～15:30 参加数 24名(小・中学生14名、高校・大学生他10名)

開催場所 浜松市勤労福祉センター(アイミティ浜松) 2F会議室

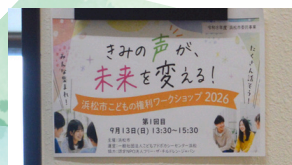


プログラム①

安心の場づくり & アイスブレイク

本ワークショップの目的と全3回+フォーラムの全体像を説明しました。

安心・安全に意見を言い合えるようグラウンドルール「4つのC」を確認し、グループごとに自己紹介をしました。「呼ばれたいニックネーム」と「浜松市の好きなところ3つ」を30秒で紹介し合い、初対面同士でも地域共通の話題で一気に和やかな雰囲気が生まれました。

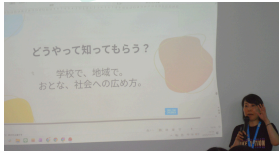


プログラム②

ワーク「こどもの権利チケットカードゲーム」

「こどもの権利条約(4つの一般原則: 差別の禁止、最善の利益、生命・生存・発達、意見の尊重)」および「こども基本法」の考え方を楽しく学習しました。実践ワークとして、日常の困りごと場面(「いじめが原因で学校に行きたくない」「親に日記を勝手に読まれる」「公園でボール遊びが禁止されている」など)に対し、どの権利チケットで状況を解決・保護できるかをグループで真剣に話し合い、カードを出し合って「自分ごと」として理解を深めました。





プログラム③

「こどもの権利」市民アンケート共有

令和7年度に浜松市で実施した「こどもの権利」に関するアンケートの結果数値から、広める必要性の根拠を学びました。

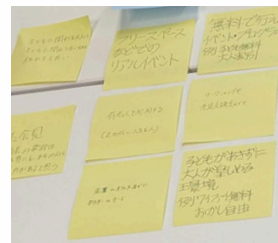
- ・ こどもの権利の認知度：小学生は28.1%、中学生は45.4%
- ・ 知ったルート：「学校・配布物」が66.6%で圧倒的第1位。
- ・ 求められるアプローチ：学校では「学校で教える（57.3%）」、社会・大人へは「大人が学んで知る（70.7%）」が最多。

プログラム④

テーマの確認・宿題説明・アイデア出し

アンケート結果を踏まえ「学校で広める方法」「大人・社会へ広める方法」の2軸で進めることになりました。

15分程度、アイデアの出し方のヒントとを学び、早速、グループごとにアイデアを出し合いました。次回までに、身近な人へインタビューした内容などを各自でまとめます。



アイデア例の記録

[1] どこで・何を使って広める？

飛行船を飛ばす / 生徒から先生へ逆授業 / 給食室・トイレ・職員室へのポスター掲載 / さくら連絡網で保護者へ発信 / 遠鉄電車・バスや遠鉄百貨店の横断幕 など

給食室やトイレなど校内の身近なスポットや、日常使用するICTツール、遠鉄電車など地元インフラの活用や、「こどもから先生へ逆授業」というこども主体のアプローチのアイデアが出ました！

[2] どんなカタチで伝える？

市長会見での発信 / Z世代に人気の有名人・インフルエンサー起用 / Scratch（プログラミング）での体験学習 / 人生ゲーム・カードゲーム化 / Wi-Fi無料・お菓子自由の居場所 など

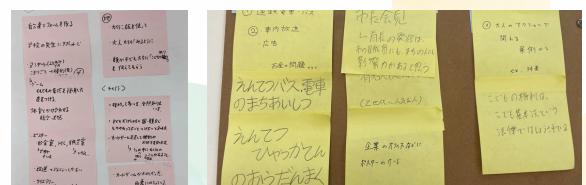
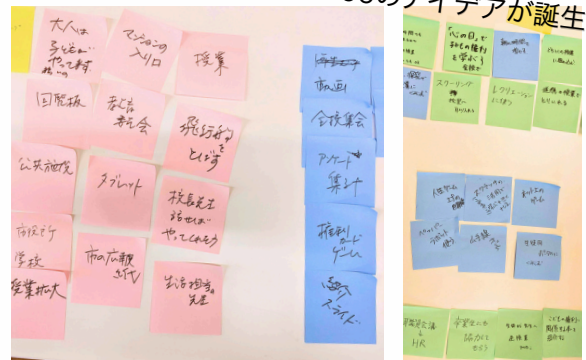
Scratchや人生ゲームなど「楽しみながら学べるゲーミフィケーション」や、市長会見や有名人起用など社会全体を巻き込む発信力、そして「Wi-Fi・お菓子自由」といった参加しやすい場づくりの視点までアイデアが出ました！

[3] 何を伝える？

こども基本法という法律で保障されていること / 外国ルーツのこどもと日本のこどもの平等 / 4つの一般原則 / 居場所の存在を発信 / 重くなりすぎない工夫 など

法律や一般原則、国籍を超えた平等性など権利の根拠を的確に把握しています。同時に、重くなりすぎない親しみやすさや、日常の生きづらさを支える「居場所」の情報など、受け手に寄り添う姿勢が表れました。

短時間で約100のアイデアが誕生！



次回に向けて

幅広い年齢のこども・若者が積極的に参加し、温かい雰囲気の中で1回目のスタートを切ることができました。ワークを通してこどもの権利のことを深く学び、アンケートなどをもとに目的意識を共有したことで、自分ごと、そして浜松市のためになにができるかに意識が切り替わったように思います。短時間で約100もの意欲的なアイデアが生まれたことも印象的でした。こどもたちと共に、実効性の高い提案へと高めていきたいです。